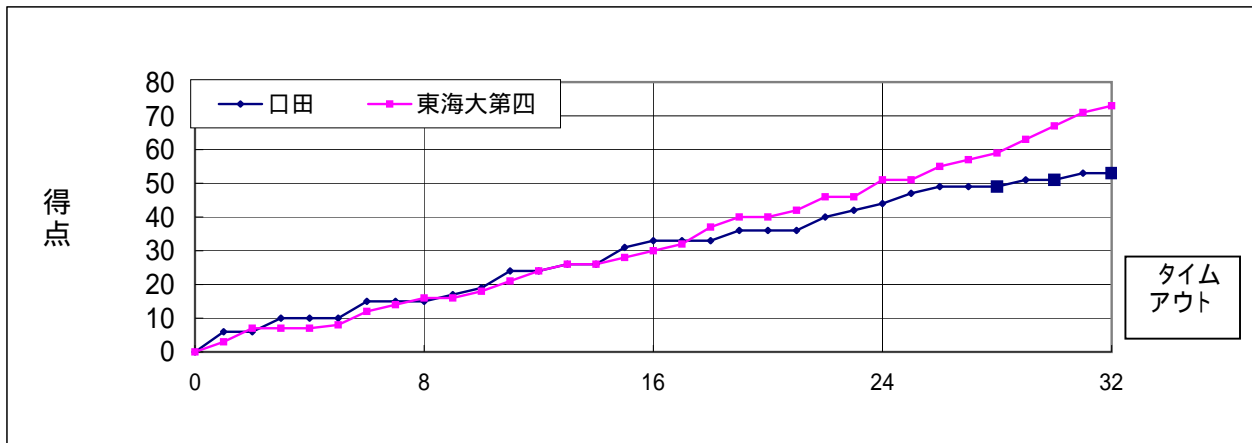


試合区分	1日目	予選リーグB	1GA6															
期日	2010年(平成22年)8月23日(月)		16:10															
会場	広島県立総合体育館																	
結果	口田 (広島)	53 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>15</td><td>-</td><td>16</td></tr> <tr><td>18</td><td>-</td><td>14</td></tr> <tr><td>11</td><td>-</td><td>21</td></tr> <tr><td>9</td><td>-</td><td>22</td></tr> <tr><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table>	15	-	16	18	-	14	11	-	21	9	-	22	-	-	-	73 東海大第四 (北海道)
15	-	16																
18	-	14																
11	-	21																
9	-	22																
-	-	-																
審判	主審 岡崎 武史	副審 長岡 紘一																



### 口田

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	花田 英次	4	0	1	2	0
5	* 松尾 芽季 (C)	8	2	1	0	4
6	* 又賀 誠	6	0	2	2	2
7	* 小玉 昂司	16	0	7	2	2
8	杉田 雄	-	-	-	-	-
9	底押 光洋	-	-	-	-	-
10	平野 耀一	-	-	-	-	-
11	塩田 知広	-	-	-	-	-
12	* 佐久間 健治	10	2	2	0	0
13	下垣内 大樹	0	0	0	0	0
14	高木 真司	-	-	-	-	-
15	加川 大輝	-	-	-	-	-
16	播磨 力斗	-	-	-	-	-
17	* 五反田 健介	9	3	0	0	0
18	本田 悠登	-	-	-	-	-
コーチ	櫻井 収一					
合計		53	7	13	6	8

### 東海大第四

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 中村 圭佑 (C)	0	0	0	0	4
5	* 本間 謙太郎	5	0	2	1	2
6	* 山下 隼	16	2	4	2	2
7	* 大澤 駿介	19	1	7	2	0
8	牛木 亮佑	9	1	3	0	1
9	田中 恵優	0	0	0	0	0
10	富樫 龍矢	-	-	-	-	-
11	因幡 俊太郎	-	-	-	-	-
12	伊藤 拓弥	-	-	-	-	-
13	中内 智也	-	-	-	-	-
14	白旗 優一	4	0	2	0	2
15	* 内田 巨人	20	0	9	2	0
16	新濱 聖	-	-	-	-	-
17	今井 隼	-	-	-	-	-
18	宮崎 哲郎	-	-	-	-	-
コーチ	嶋村 圭太					
合計		73	4	27	7	11

\*...スターター (C)...キャプテン 3P...3点シュート 2P...2点シュート FT...フリースロー F...ファウル

### 戦評

初戦、惜敗した口田中と、接戦を制した東海大第四の対戦。両チームともマンツーマンDefでスタート。口田は#12の3Pで先制、東海大第四もすぐさま#6が3Pを決める。口田は#12が連続3Pを決めるが、東海大第四はドライブからファウルをもらい、フリースローで着実に加点していく。口田は#7が連続でゴール下のシュートを決め、さらに#5の3Pが決まるが、その後はお互いミドルシュートで得点を入れ合う。東海大第四は#8のドライブ、#15のシュートで逆転し、15-16で1Qを終了。2Qは両チームとも決定的な攻め手がなく、互いに点を入れ合い、一進一退の攻防が続く。残り2分で同点。そこから口田#6のゴール下、#7がフリースローを決め、33-30で前半を終える。

3Qは立ち上がり東海大第四の#15、#5の連続速攻、さらにバスケットカウントで33-37と逆転。そこで口田は#4が出場。口田は#4を起点とし、#17の3P、#4、#7のゴール下シュートが決まる。対する東海大第四も、#5の速攻、#15のミドルシュート、#8の3Pが決まる。さらに終了間際に#7のリバウンドシュートが決まり、44-51で3Qが終了した。4Q、口田はオールコートゾーンプレスでスティールを狙うが、逆に東海大第四に5連続ゴールを奪われる。その後も東海大第四は#6、#15のドライブや速攻で攻め続け、一気に突き放し、53-73でゲーム終了となった。口田は、最後まであきらめることなく、全国の舞台で走りぬいた姿が感動的であった。

記事者 関川 富栄 (所属) 広島